

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 槻田 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- 教科に関する調査（国語、数学）

教科に関する調査（国語、数学）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- 生徒質問調査

生徒質問調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

- 全国・本市の学力調査（国語、数学）の結果

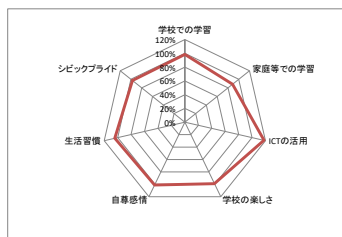
本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	57	7.8	49
全国	8.7	58	8.4	53

- 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体としては平均を上回っているが、説明したり要約して解答することやや難がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する	上回っている
数学	全体的な傾向や特徴など	全体としては平均を上回っているが、説明したり説明を読み取ることに難がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフとy軸との交点Pのy座標の値が表すものを選ぶ	上回っている
生活習慣	全体的な傾向や特徴など	全体としては平均を上回っているが、説明したり説明を読み取ることに難がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフとy軸との交点Pのy座標の値が表すものを選ぶ	上回っている
ICTの活用	全体的な傾向や特徴など	全体としては平均を上回っているが、説明したり説明を読み取ることに難がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフとy軸との交点Pのy座標の値が表すものを選ぶ	上回っている

国語	全体的な傾向や特徴など	全体としては平均を上回っているが、説明したり要約して解答することやや難がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する	上回っている
数学	全体的な傾向や特徴など	全体としては平均を上回っているが、説明したり説明を読み取ることに難がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフとy軸との交点Pのy座標の値が表すものを選ぶ	上回っている
生活習慣	全体的な傾向や特徴など	全体としては平均を上回っているが、説明したり説明を読み取ることに難がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフとy軸との交点Pのy座標の値が表すものを選ぶ	上回っている
ICTの活用	全体的な傾向や特徴など	全体としては平均を上回っているが、説明したり説明を読み取ることに難がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフとy軸との交点Pのy座標の値が表すものを選ぶ	上回っている

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
・「友達関係に満足しているか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」との問いに対して80%以上の生徒が肯定的に回答している。
・主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、生徒の自己有用感等に大きな影響を与えている可能性があるため、今後も学校全体で授業改善を進め、生徒が「わかった」「おもしろい」「できた」と思える授業にすることが必要である。
・「学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の回答で1時間以上とした割合が低かった。今後は、家庭学習等をさらに取り組めるような指導を進めていく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- 教科に関する取組

国語・数学ともに説明を要する問題の正答率が低いので、まとめや振り返りの活動を中心に、相手に伝わる表現の指導を更に進めていく。

- 家庭生活習慣等に関する取組

調査の時点では家庭学習に時間をかけている生徒が少ないという結果がみられた。そのため、現1・2年生では家庭学習を増やす取り組みを進めている。